

日本史 B	報告課題第 3 回 解説	年	組	氏名	
-------	--------------	---	---	----	--

◎教科書『詳説日本史 B』 p68～84をしっかりと読みましょう。

また、以下に書かれている学習内容の解説を読み、理解を深めましょう。

〈ポイント〉 報告課題は教科書からの抜きだし問題が多くあります。

報告課題の文章と教科書の文章を照らし合わせながら問題を解き進めましょう。

### 1. 「摂関政治」

摂関政治とは、摂政・関白が引き続いて任命され、政権の最高の座にあった10世紀後半から11世紀頃の政治のことをいいます。摂政は天皇が幼少の期間にその政務を代行します。関白は天皇の成人後に、後見役として政治を補佐します。

### 2. 「国風文化」

国風文化は、10～11 世紀に広がった国風化という点に特色のある文化です。貴族社会を中心に、今までに受け入れられてきた大陸文化を踏まえ、日本人の人情・嗜好を加味し、日本の風土に合うように工夫され、優雅で洗練されているところに特徴があります。具体的には、かな文字の発達などがあげられます。

### 3. 「地方政治の展開」

10 世紀初めになると、律令体制の制度が崩れ始めます。戸籍の制度は崩れ、租や調などの取り立てができず諸国や国家の財政を維持することができなくなっていました。こうした事態に対して政府は、国司の交代制度を整備するなど対応を行っていきます。

### 4. 「荘園の発展」「武士の成長」

荘園とは、大寺院などが土地を独占し、付近の農民らを使用して灌漑施設をつくり、原野の開墾を行って製作したものをいいます。(初期荘園)そして、荘園が発達すると、貴族や有力寺社の権威を背景にして、政府から官物などの免除を承認してもらった荘園が増加していきました。

9 世紀末頃より各地で紛争が発生していました。その鎮圧を任命された中・下級貴族らが、その後も現地に残り武士（兵）となるものが現れました。